

令和7年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	国分寺北部小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) 元小学校長



1、地域と学校が共に目指している事

- ・国分寺町で育ち、国分寺町で学び、国分寺町で暮らしてよかったと思える教育
- ・「あかもん学習」を核とした地域に開かれた教育課程の実施、学校・家庭・地域の情報共有、健全育成の協働により、ふるさと教育を推進・発信する。(コミュニティ・スクールの推進)

2、活動の内容

【第1回】 6月25日(水)：学習参観前に実施

- ・今年度の学校経営方針
- ・学校行事年間予定・児童の様子についての情報交換
- ・協議(質疑応答)

【第2回】 1月30日(金)：人権教育講演会前に実施

- ・今年度教育活動の成果と課題(令和7年度学校評価アンケート結果説明)
- ・令和8年度学校運営協議会委員(案)/コーディネーターの承認
- ・令和8年度年間活動計画
- ・令和8年度高松市立国分寺北部小学校学校経営方針(案)
- ・児童の様子についての情報交換

3、今年度の成果

- ・年間2回（学習参観、人権教育講演会と同一開催）の協議会を実施し、本校の学校行事や児童の様子を公開することで、本校教育活動への理解を深めていただいた。
- ・委員からは、第1回では、運動場整地など教育環境への提言をいただき、第2回では、交通安全のため通学路、登下校に関しての人的配置の強化を望む声をいただいた。
- ・児童の交通安全確保は、次年度も引き続き課題とする。学校は見回りを強化するとともに、PTAが見守りボランティア募集を行うなど、学校・保護者・地域の力を合わせて児童の安全を守っていくことを確認した。

4、次年度に向けての課題

- ・第2回後、委員からより学校と地域との協議の場を望む声が寄せられた。会中에서도出された交通安全に係る見回り活動の充実への方策など、引き続き話し合いを通じて改善を図っていく。
- ・第2回頃は、学習参観や学校行事が集中しているため、運営協議会委員へ公開する学習テーマは、何がふさわしいのか（日常的な学習、防災、人権など）、目的や内容を吟味していく。

地域学校協働活動

コーディネーター

1. コーディネーターの主な活動内容

No	項目	内容
①	子ども民生委員活動	ねらい：小学生が「子ども民生委員」となって地域の一人暮らしの高齢者を見守る 参加対象：5年生、6年生の希望者 協力団体：北部地区民生・児童委員協議会、NPO 法人国分寺北部校区コミュニティ協議会 ・4月に募集チラシを作成し、5・6年生全員に配布して参加者を募った。5月には、5年生全員にプレゼンを実施して直接参加を呼びかけた。（6年生には昨年度実施している） ・毎月第3土曜日の13時～15時（6月～3月の10回）、コミセンの会議室で高齢者へのプレゼント作り（折り紙、カード、手紙等）をしたり、手品の練習をしたりしている。9月は敬老会の記念品渡しをした。 ・民生児童委員協議会に対して活動に賛同してくれる一人暮らしの高齢者の名簿作りを依頼して、子どもたちからの手紙の作成に繋がっていきたいと考えている。 ・民生委員やコミ協の役員、PTAからボランティアを募集して活動の補助に当たってもらっている。 ・手紙による交流を経て、年度末には作成したプレゼントを持って高齢者宅を訪問し、継続的な見守り活動に発展できるようにしたい。
		  

②	学習支援サポーター	ねらい：学校からの要望により、5年生家庭科のミシン実習の指導補助をする 参加対象：地域住民の希望者 協力団体：讃岐国分寺天平文化倶楽部、 国分寺生活研究グループ、連合自治会、 ・6月の学校運営協議会の際、学校側から学習支援ボランティアの依頼を受けて募集チラシを作成し、参加者を募った。 ・学習予定日が決定した後、10月に応募のあったボランティアに対して事前研修会を行った。学習支援ボランティアとしての心得や活動の際の留意点等を手引きにまとめ、コーディネーターより説明した。その後、実際に現地（家庭科室）を訪問して、使用するミシンの動作確認をすることができた。 ・4クラスを2日間に分けて、1組と2組を10/23（木）、3組と4組を10/29（水）に実施した。 ・事前に現地を確認できたことや当日までの活動を学校側から知らされていたこと、さらに予想されるハプニングとその対処法を前もって共通理解できていたこと等で、当日はスムーズに指導補助に当たることができた。 ・事後にとったアンケートによると、「ミシン指導以外の学習支援にも参加してみたい」という声が多く聞かれた。 ・学校側と相談の上、他の支援活動にも広がっていききたい。
③	ボッチャ教室	10月、5年生の総合的な学習（障がい者理解）で実施。人権擁護委員の協力を得て児童はパラスポーツの意義を学ぶことができた。

2. 苦労したことや、今後解決しようと考えている事

- ・子ども民生委員活動については、スタートして3年目を迎える。始めは5年生全員（100人位）に手紙を書いてもらい、民生委員を通して高齢者（50人位）に渡していたが、個人情報保護の観点から無記名での手紙となったことで、高齢者や民生委員から「誰からもらったかわからない」「返事が書きにくい」等の意見があり、当初目指していた交流活動にまで発展することができなかった。
- ・今年度、希望制にして活動に賛同する子を募集して活動しているが、6人しか集まっていない。今後口コミで活動の輪が広がっていけばいいなと考えている。

3. 成果・効果

- ・学校が「こうして欲しい」と思っていることと、地域の「こうしてあげたい」という思いとを学習支援ボランティア（ミシン実習補助）という形でつなぐことができた。
- ・コーディネーターが地域の人材を掘り起こし、学校との橋渡しの役目を果たすことができたことは1つの成果だと思う。
- ・地域には、まだまだ様々な技術や特技をもった人材がたくさん埋もれていることも実感できた。

４・これまでの活動全般を通して感じていることや、今後の展望など

- ・校区内には青少年健全育成連絡協議会や地域安全推進委員協議会で作る「児童見守り隊」という下校見守りボランティアの組織がある。これまで校区内の危険箇所を中心に様々な場所で自主的に見守り活動が続けてきたが、隊員の高齢化等の理由により「コミセン前交差点」での立哨当番の数が足りなくなるという問題が発生した。
- ・解決策として「見守り隊と学校とPTAの3者が協力して見守り活動の継続が図れるようにしたい」という要望がコーディネーターに対して示され、学校に連絡して臨時の学校運営協議会を開くことになった。
- ・その場で、見守り隊からは「月曜から水曜までは当番がつくから、木曜日は教職員で、金曜日は迎えに来ている保護者でお願いしたい」という提案が出された。
- ・話し合いの結果、PTAから「金曜に限定せず、毎日迎えに来ている保護者に見守りをするように協力を呼びかける手紙をPTAから配布する」という改善案が示された。
- ・地域には、それぞれが思いをもって活動している団体がいくつかある。その中で抱えている問題点や障害があっても個人や単体のレベルでは解決できない場合が多いが、今回のように関わっている組織が一堂に集まって解決策を話し合う場が持てたことは良かった。
- ・コーディネーターが、その案内役になればより良い活動に結び付けることができるのではないかと感じた。
- ・地域に埋もれている人材を掘り起こし、人材バンクを整備することがコーディネーターの役目を果たすことに大きく役立つと強く感じている。そのためには、コーディネーター自身が地域のことをよく知り、人脈を広げることが大切であると思う。
- ・自分がかつて学校経営に携わっていた経験を生かし、学校の抱える問題点や地域への要望などをある程度予想できることは強みだと捉えている。
- ・学校が言いにくいこともコーディネーターとして代わりに地域やボランティアに伝える事もできる。学校と地域の潤滑油的な役割も果たせればいいと思う。

学 校

1、成果・効果と今後の見通し

- ・ **地域との連携強化**：学校・保護者・地域が協力する体制が整い、見守りや環境整備など安全・安心な学校づくりに寄与。
- ・ **児童の学びの充実**：ミシン学習やボッチャ教室を通じて、家庭科・総合的な学習の質が向上。障がい者理解や防災意識の向上も確認できた。
- ・ **地域人材の活用**：学習サポーターや防災活動で、地域の専門性や経験を活かした教育活動が実現